

CWA NEWS



姉妹交流20周年友好使節団の派遣報告～より深い交流を求めて～

昨年度、新型インフルエンザの大流行のため延期になっていた友好使節団の派遣は、平成22年9月17日から25日までの日程で実施しました。出発前に森田知事を表敬訪問したところ、知事から5月のウィスコンシン州訪問の際、ドイル知事を始め多くの方から温かいおもてなしがあったことに対し感謝の言葉が述べられ、使節団には激励の言葉をいただきました。

我々友好使節団はウィスコンシン州で多方面にわたる交流を行いました。特に、千葉県との姉妹交流20周年を祝っていろいろな企画を同州で用意していただき、例年と比べて強行日程となりましたが、元気で帰国することが出来ました。

まず、20周年記念パーティでは、これまで千葉県を訪問したグループが数多く参加し、パフォーマンスの披露・交流を行いました。また、記念のケーキカットも行いました。

更に今回は、野田市の伝統芸能グループが初めてキッコーマン・フーズ社のウィスコンシン工場を訪問して、多くの社員にパフォーマンスを披露し、拍手喝采をうけました。

その後は、文化・芸術、バイオマス及び女性のつばさの各グループに分かれて各地で交流を深めました。また、ホストファミリーにはこれまでと同様大変お世話になり、交流を深めることができます。

最終日には、ホストファミリーも出席したフェアウェルパーティで記念品の交換をしました。そして、来年秋には、ウィスコンシン州から使節団をお迎えすることが確認されたので、今後Wisconsin-Chiba Inc. と協力しながら、その準備を進めていきたいと考えております。

以上が派遣の報告ですが、出発前一抹の不安を感じていた団員の方々も何事もなく元気に帰国できました。

た。これは各グループのリーダーを始め団員の皆様方の努力に負うところが大きく、改めてお礼申し上げます。

最後に、ウィスコンシン州での滞在中、お世話していただいたWisconsin-Chiba Inc. のメンバーを始め、訪問先の学校や企業等の関係者、そしてホストファミリーの皆様には深く感謝の意を表したいと思います。

(団長 森山茂男)

*各グループの記録等 2～4 ページ



キッコーマン・フーズ社の工場にて



Middletonでのパフォーマンス

舞う 文化・芸術グループ。

今回は姉妹県州交流20周年に当たり、交流の橋渡しをされた茂木会長のキッコーマンの故郷野田から、民族芸能の獅子舞をバッパカ獅子舞保存会と中里喜楽会の2グループで公演するという編成になりました。

ばっばか獅子舞は元禄6年に厄除けの為に清水の八幡大菩薩に奉納されたもので、昭和41年に千葉県の無形民俗文化財に指定されました。中里喜楽会の獅子舞はお正月やおめでたい場所には欠かせない民族芸能でひょっとこの踊りには思わず笑いが起こり会場の雰囲気を和らげました。キッコーマン工場やキッコーマンが奨学金を出してられる高校での公演、ヴェロナの小中学校、マディソンの公立、私立学校、公民館でも多くの方々に野田の二つの獅子舞を見ていただきました。

どこでも拍手喝采やスタンディングオーバーションが起こり、公演者一同大変心に残る8日間でした。（中村 勤、青木靖子）



恐る恐るひょっこ握手！



高校生も笑顔、笑顔



Middleton Public Libraryでの公演



キッコーマン工場での公演

〈行程〉

9/19	20周年記念パーティー (Fitchburg Community Center)
9/20	キッコーマン工場 Delavan-Darien高校 Middleton Public Library
9/21	Country View小学校 Badger Ridge中学校
9/22	Madison West高校 Madison Country Day校

〈団員〉	中村 勤(バッパカ獅子舞保存会)	・浦辺 総一郎(バッパカ獅子舞保存会)	・駒崎 正(バッパカ獅子舞保存会)
二上 孝雄(バッパカ獅子舞保存会)	・染谷 信一(バッパカ獅子舞保存会)	・猪股 寛(バッパカ獅子舞保存会)	
増田 一実(バッパカ獅子舞保存会)	・遠藤 一騎(バッパカ獅子舞保存会)	・岡田 日出夫(中里喜楽会)	
渡辺 重光(中里喜楽会)	・小沼 辰郎(中里喜楽会)	・青木 靖子(千葉ウィスコンシン協会)	

見る バイオマスグループ。

バイオマスグループは、20日から23日の間、ウィスコンシン州政府を始め、企業・自治体・研究機関におけるバイオマス利活用状況等について視察しました。今回の訪問においては、州政府（石油依存からの脱却を目指す担当部局）の実務担当との情報交換を行うと共に、セルロース系バイオマスからバイオエタノールを製造するための研究開発について、研究者と面談し、その進捗状況などについて聞き取りました。

また、下水処理施設における下水汚泥の有効利用状況、廃棄物処分場におけるガス回収・利用状況を視察すると共に、乳牛の排せつ物からガス回収や発酵残さの有効利用を行っている大規模牧場を訪問しました。

更に、太陽光や風力エネルギーの利用により、二酸化炭素の排出抑制を図る製品の製造・販売を行っている企業も視察しました。（渡辺健一郎、森山茂男）



ウィスコンシン州政府での情報交換



Great Lakes Bioenergy Research Center



Orion Energy Systems視察



廃棄物処分場(ガス発電施設)視察



Milwaukee市内にある下水処理施設の見学

〈行程〉

- 9/20 Delavan Landfill
(廃棄物処分場)
9/21 Office of Energy Independence
(州政府エネルギー担当事務所)
Milwaukee Metropolitan Sewerage District
(下水処理施設)
9/22 Sheboygan Wastewater Facility
(下水処理施設)
Orion Energy Systems
(再生エネルギー機器メーカー)
Quantum Dairy
(大規模牧場)
9/23 Great Lakes Bioenergy Research Center
(バイオエタノール研究機関)
USDA Forest Products Lab
(国の森林資源利用の研究機関)

〈団員〉渡辺 健一郎(千葉県資源循環推進課)
瀧澤 智和(南房総市地域資源再生室)
相原 秀基(株式会社和郷環境事業部)
森山 茂男(千葉ウィスコンシン協会)

知る 女性のつばさグループ。

女性のつばさグループは、地域社会で、教育・医療・介護等で活動している4名が参加しました。9月17日(現地時間)夜のマディソン空港に到着後、歓迎夕食会に参加しました。次の日から他のグループと合流しながら行動し、そして21日から23日まで私達グループは独自のメニューを積極的にこなしました。ホスピスセンター、チルドレンセンター、ギルダーズクラブ等々の施設を視察研修し新しい知識を得ることができました。

また、マディソン、ミルウォキーでは、かつて千葉に“ウィスコンシン女性のつばさ”として来葉された方達との懐かしい再会を果たしました。緊張したホームステイでは、米国の家庭生活の一部も垣間見ることもできました。

Wisconsin-Chiba Incの方達の暖かいおもてなしに感謝しつつ、今後もこの交流事業が末長く続くことを願いながらマディソン空港を後にしました。 (野村ひろ子、大浦京子)



Woods Hollow Children's Center(保育園)視察



壁に故人愛用の蝶ネクタイが飾られているホスピスセンター



癌患者、家族の心のケアをするGilda's Clubにて



Milwaukee Art Museum視察

〈行程〉

- 9/21 Woods Hollow Children's Center
(ウッズ ホローチルドレンセンター)
HospiceCenter
(ホスピスセンター)
9/22 Gilda's Club
(ギルダーズ クラブ)
9/23 Milwaukee Art Museum
(ミルウォーキー アート ミュージアム)

〈団員〉野村 ひろ子(茂原市民生児童委員)・古川 比呂子(医療法人社団九人会役員)
中村 尚子(長南町民生児童委員)・大浦 京子(千葉ウィスコンシン協会)

—ウィスコンシン(ホストファミリー)からのメッセージ—

Sister City Reflections

It was exciting to learn that the Chiba-Wisconsin exchange was happening in September and that one friend from the previous delegation would be returning with the biomass group. We expected him last year but the trip was cancelled last year because of the threat of H1N1 flu.

We were asked to provide housing for the 4 members of the biomass group. After addressing the logistical challenges imposed from my recent ankle surgery at the end of August, we began to organize for their upcoming visit. Hosting for the second time is much easier as we were more familiar with the group programming, the Wisconsin coordinators, and had a better idea of the daily activity schedule. As a returning guest, Moriyama, was familiar with the house and our life style. He helped us transition of the others to their Madison home and simplified our communication with nicknames. The younger biomass members are about the same ages as our three sons, which was a nice fit for our family. It gave us many things in common to talk about. Initially, they were reluctant to speak to us in English but with Moriyama's encouragement they improved daily.

We live near Camp Randall Stadium (home to the University of Wisconsin football team), so when we brought them to our house Saturday morning, our neighborhood was hopping with activity prior to the football game. Their first sightseeing excursion was a walking tour of pregame parties, car parking, and game security measures. They continued their walk with a brief tour of the campus before returning home for lunch, full of excitement from the sea of red shirts and activities. In order to have time for shopping and sightseeing, we recorded the game to watch later.

A high priority for our group was to purchase gifts to bring back to Japan. It was fun to help them think about things that are special from Wisconsin as well as the other items on their list. The task was more difficult as there were four of them but they were up to the adventure. They experienced shopping in a large mall, grocery store, and at the University dairy store.

The 20th Anniversary celebration of the Chiba-Wisconsin exchange was an incredible event. Entertainment was provided by previous cultural delegates to Chiba and Chiba's group this year. We were very lucky, as normally one has to pay a lot of money to see this level of talent. The richness of these cultural exchanges increases our global awareness and understanding.

The potluck for the delegation and their host families was another opportunity to try foods from each culture. It also provided time to interact with other members of the delegation, hosts, and local coordinators. The intermingling of people, foods, clothing, and language made the experience a memorable time to remember.

David and I have had the pleasure of sharing our home, time, and experiences with people from other countries for over 20 years. The Chiba-Wisconsin exchange is a unique way to bring our cultures together. We wish it could be shared more broadly across Wisconsin. The exchange may be only a few days but the friendships and connections remain for a life time. Thanks!

Joy and Dave Drummond



ホストファミリー宅にて

姉妹交流への思い(要旨)

昨年の9月千葉からバイオマスグループが来ることになったと聞いて喜んでいたのですが、新型インフルエンザのために延期になりました。そして、今年になり、そのメンバーを受け入れて欲しいとの依頼がありましたが、8月にくるぶしを手術したため、準備がぎりぎりとなってしまいました。

4人の中で、2度目のゲストである森山さんは我が家のこととに馴れていて、息子達と同年代の3人の若いゲストとのコミュニケーションの手助けをしてくれましたので、日ごとに英語での会話が円滑になりました。我が家は、ウィスコンシン大学のフットボールチームのホームスタジアムの近くにあります。土曜日の朝、丁度大きなゲームがあり、多くの観衆が赤いティーシャツを着て試合前のパーティをしているの歩きながら見ました。ウィスコンシン大学のキャンパスまで散歩をしてから、買い物をする間、食事の用意をしたので、試合はテレビ録画をしました。ゲスト達の最優先の関心はお土産の購入だったので、ショッピングモール、食料雑貨店や大学にある乳製品コーナーで購入するのを手助けして楽しかったです。

姉妹交流20周年記念パーティは素晴らしいイベントでした。以前千葉を訪問したグループや千葉からの団員によるパフォーマンスを見ることが出来、我々は非常に幸運でした。これらの交流により、相互理解が深まることになります。ポップトラックパーティやホストファミリーによる相互理解は、衣食や言葉を通じて、人々の記憶に多く残ることになるでしょう。

デービッドと私(ジョイ)は、今回のホームステイを含め、他の国の人々と20年にわたる交流の楽しみを分かち合えたと言えるでしょう。千葉とウィスコンシン州との姉妹交流は、両国の文化を結び付けるのに良い方法だと思います。この交流がこれからより広がることを希望しています。交流の期間は数日でも、その友情とその結び付きは一生続くでしょう。有難うございました。

ジョイ & デーブ・ドルモント

特集 姉妹交流20年の歩み 中

前号に引き続き姉妹交流の歩みをたどってみました。

<千葉県とウィスコンシン州との交流状況>

西暦	平成月	出来事
1990	2年 5月	千葉県とウィスコンシン州が姉妹県州締結
	9月	婦人のつばさウィスコンシン州を訪問(21人)
1991	3年 7月	姉妹交流事業教育使節団派遣(10人)
	10月	婦人のつばさウィスコンシン州を訪問(40人)
	11月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(40人)、県民まつりに出演
1992	4年 7月	WYSO交流演奏会(86人来葉)
	9月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(40人)
	10月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(49人)、しば文化祭に出演
1993	5年 8月	しば120友好ウイング使節団派遣(70人)
	9月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(44人)、しば文化祭に出演
	10月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(39人)
1994	6年 6月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(40人)、県民まつりに出演
	9月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(32人)
1995	7年 8月	しば友好ウイング95使節団派遣(41人)
	10月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(33人)
1996	8年 6月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(40人)、県民まつりに出演
	9月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(33人)
1997	9年 9月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(33人)
1998	10年 3月	千葉県少年少女オーケストラ派遣(119人)、交流演奏会
	8月	州政150周年記念祭文化使節団派遣(40人)
	10月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(27人)
1999	11年 5月	ウィスコンシン・ウーマン・ウイング受入れ(8人)
	6月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(39人)、県民まつりに出演
	9月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(19人)
2000	12年 6月	ウィスコンシン州文化使節団受入れ(21人)、県民まつりに出演
	10月	女性のつばさウィスコンシン州を訪問(18人)



千葉県の沼田知事(当時)とウィスコンシン州のトンプソン知事(当時)が姉妹県州締結

2001	13年 5月	ウィスコンシン・ウーマン・ウイング受入れ(14人)
	8月	千葉県友好使節団派遣(19人)
2002	14年 9月	ウィスコンシン州友好使節団受入れ(19人)
2003	15年 5月	ウィスコンシン・ウーマン・ウイング受入れ(10人)
2004	16年 3月	千葉県友好使節団(21人派遣) ※バイオマス分野の相互交流を開始
		堂本暁子千葉県知事がウィスコンシン州ドイル知事を訪問
	5月	千葉ウィスコンシン協会(CWA)発足※設立総会:5月29日
	9月	ウィスコンシン州友好使節団受入 文化・芸術14名/バイオマス4名
	10月	総の会「しばウーマン・ウイング2004」ウィスコンシン州を訪問(8人)
2005	17年 5月	ウィスコンシン・ウーマン・ウイング受入れ(8人)
	9月	千葉県友好使節団派遣 文化・芸術13名/学術・教育3名/バイオマス4名
2006	18年 6月	総の会「2006女性のつばさ」ウィスコンシン州を訪問(10人)
	10月	ウィスコンシン州友好使節団受入 文化・芸術12名/学術・教育7名/バイオマス4名 千葉大学とWI大学ミルウォーキー校が協定締結(学術交流・学生交流)
2007	19年 5月	ウィスコンシン・ウーマン・ウイング受入れ(9人)
	10月	千葉県友好使節団派遣 文化・芸術11名/学術・教育2名 バイオマス4名/精神科医療5名 神田外語大学とマディソン地域工科大学が協定締結
2008	20年 11月	ウィスコンシン州友好使節団受入 文化・芸術9名/バイオマス4名/女性のつばさ7名
2010	22年 5月	森田健作千葉県知事がウィスコンシン州ドイル知事を訪問 姉妹友好提携の再確認 姉妹交流20周年記念交流会
	9月	千葉県友好使節団派遣 文化・芸術12名/バイオマス4名/女性のつばさ4名



森田知事とドイル知事が姉妹友好提携の再確認

4 世界へ羽ばたくきっかけはウィスコンシンとの出会いだった（1993年）

【龍崎英子さんからの寄稿】

千葉伝統郷土料理研究会員6名は1993年8月、団らずも千葉120友好 ウィングに参加する機会を得、現地の農業祭の会場で千葉県の郷土料理である太巻き祭りずしを披露しつつ現地の方達に体験学習をしてもらうチャンスを与えられました。それまで外国人を指導したことではなく、戸惑いましたが通訳も付くことだし1週間もいる間には慣れるであろうと極めて楽観的に考えていました。実はメンバーの1人に短大1回生があり彼女の英語力を半ばあてにしていたのです。

会場では5人の受講生に1人の講師がつき4組構成でパ



ステートフェアの野外ステージで

ラの花を見事に巻き大成功でした。反響は予想以上で、見物者からは盛んな拍手とブラボウが・・・。

また、終始熱心に協力してくださった在留邦人の方

ステートフェア会場で体験学習

から「日本の家庭料理として誇れるものです」と言われ、私の著書の翻訳を・・・とまで申していただき感動したことが懐かしい思い出です。

以来この体験学習の経験を活かし、私達の指導方法は変わり、これまでの見せるだけの指導に体験学習を組み込むことにしました。帰国後、日本教育新聞社の協力で和英対訳の「あとと太巻き祭りずし」が発行され、現在オーストラリア、イタリア、トルコ、上海など多くの外国人の指導に役立っています。ウィスコンシンとの出会いが当研究会発展のきっかけだったと思っています。



5 人生を変えたウィスコンシンでの演奏会（1998年）



メモリアル高校での演奏会

【佐治薰子さんからの寄稿】

どの演奏会場も一杯のお客様が総立ちになり、拍手が鳴り止まなかったあの時の感動は、今でも私の脳裏に焼きついで離れません。

当時の団員達の感想文からもたくさんの感動の様子が伺われます。中でもチェロの川井真由美さんは、「客席全員が立ち上がり“プラボーリー！”と拍手。私はもう嬉しくて今にも泣きそうだった。その大きな拍手が鳴り止まないうちに、アンコール曲の‘星条旗よ永遠なれ’の演奏が始まった。日本ではありえない程の手拍子に私は我慢できなくなって涙がボロボロ・・嬉し涙でチェロを弾いたのは初めて、本当に幸せでした。私もいつか一人で

このくらいの拍手をもらいたいと思った。私はコンサートに来てくださったお客様のことが一番の思い出です」と書いています。川井さんは当時大学の英文学科に受かっていたのですが、ウィスコンシンの感動がきっかけとなって音楽の道に進むことを決め、今はプロのオーケストラの一員として活躍しています。

千葉県少年少女オーケストラ104名が1998年3月24日から8日間、友好使節団として派遣されてから13年になります。県の方に財団職員、現地の宮崎久さんご夫妻と娘さん、大岸敏子さん、シカゴ在住のピアニスト長島達也さん、団員全員のホームステイを引き受けさせていたマディソンの皆さん、多くの方々のご厚意により、忘れられない素晴らしい演奏会ができたことを、深く深く感謝いたします。皆さんありがとうございました。



ウィスコンシン・ユース・シンフォニーオーケストラとのジョイントコンサート後の昼食会

6 ウィスコンシン州政150周年記念祭に参加して（1998年）

【山崎重子さんからの寄稿】

アメリカ合衆国の30番目の州として連邦政府に加盟したウィスコンシン州では、150周年を迎えた1998年“ウィスコンシン・フォークリフ・フェスティバル”が州都マディソン市で開催されました。この記念事業祭は、ウィスコンシン州に住むアメリカインディアンが伝統的な踊りを披露しフェスティバルを盛り上げたのが始まりでした。

千葉県のほか中国、ドイツ、二カラグア、メキシコの5カ国から親善使節団がマディソン市を訪れました。千葉県では沼田武知事(当時)を団長とする約40名の使節団が派遣され、州庁舎前大通りにテントを設営、特設ブース



特設会場で着物の着付けを実演

を作り、茶道、生け花、日本きもの、書道の実演、また会場では和太鼓に盆踊り、浴衣姿の千葉県民と地元アメリカ人が一緒に和氣あいあい伝統職人による竹細工、凧作り、節句人形、太巻きずしを楽しみ、人気を呼んでいました。



特設会場で茶道を実演

ウィスコンシン州は千葉県の28倍と広大な面積があり、酪農、林業に適し治安もよく、州都マディソン市は大学を中心とした教育の町で人間同士心の通い合う美しい町でした。そして、私事ですが、お祭り最終日の茶会で白髪のご老人が十字架のペンダントを下さりながら仰った「毎日あなたの姿を見ておりました。大変な働き者ですね」との言葉が大切な思い出です。

7 忘れられない金平牛蒡(きんぴらごぼう)の味 (2001年)



ステートフェアで歩きながらの三味線演奏

【浅沼明夫さんからの寄稿】

ウィスコンシン州派遣から早くも9年、もうそんなに経ったのかなと思う今日この頃です。その間色々なグループが派遣されました、その度に思い出されます。当時10名の民謡グループでしたが、それぞれ三味線の手が合わなく、それを統一するため、合奏は“千葉じょんから”と名付けて譜面を作製し、見事な曲ができ大変好評でした。また、お祭りでの歩きながらの三味線演奏は日本でも滅多にやらないことなので印象深い思い出となっています。

演奏公演にもまして思い出されること、またつい話題にしてしまう話は金平牛蒡についてです。ホームステイでのシンプソンさん一家のもてなし、あたかも家族のように過ごすことが出来た2日間でした。3日間ホテル食だったので本当に旨かった。今でもはっきりとメニューを覚えていて、味噌汁、胡瓜の酢の物、特に金平牛蒡には!!まさかアメリカで食べられるとは・・・今でもあの味が思い浮かびます。

また、プレゼントした竹トンボ、日本の忍者ごっこで遊んだ3人の子供達、本当にここはアメリカなのかと思える程楽しい一時を過ごすことができました。特にホームステイのことは忘れられない思い出です。シンプソンさん本当に有難うございました。



ホストファミリーと近くの湖岸にて

8 ウィスコンシンは私の心の財産 (2003年、2010年)

【里見香華さんからの寄稿】

ウィスコンシンと聞くだけで、すぐにでも行きたいという思いに駆られる程魅力満載の所です。まず、行けども行けども果てしない大草原、見たこともない180度広がる青い空、雄大な風景を思い出すだけで肺活量が増えます。また、何より訪れる人をいかに喜ばせるかを心得ており、その行き届いた歓待ぶりは私達一同胸熱く感動させ、実際に見習うべき最上級のもてなしでした。そして、心優しい友人達の、時々の表情や仕草をなつかしく思い出す時、



琴の演奏で「荒城の月」を舞う

幸せが湧き出し疲れを癒してくれ、私の心の大きな財産となっています。
私は幸運にも、今年の交流20周年記念式典に知事さんと共に訪米させていただく榮を得ました。前回お世話をなった皆様と



「南締里見八犬伝」をテーマに訪問、マニトワック市長を囲んで

再会、ウェルカムと大歓迎を受け至福の時を過させていただきました。3時間もかけて車で駆けつけてくださった前マニトワック市長の笑顔、団長だったズグロス氏は勤め先の役所に里見節を踊る私の写真を置き、いつも見ていますとハグしてくださいました。中でも海外出張が多く、会えたらラッキーといわれるサンチャゴさんが夕食もとらず役所から直行し、夜遅く郊外のホテルまで会いに来てくださったのには大感激でした。加えて、いつもながら私達の滞在中、常に親身も及ばぬ程付きっきりで面倒を見てくださる宮崎夫妻なくしては、千葉インクもCWAも成り立たないと思っております。只々感謝あるのみです。

9 相互交流で深まる友情と信頼、そして温かいおもてなしに感動 (2006年)



ドイル知事夫妻と知事公舎にて

【平山さち子さんからの寄稿】

2006年6月私たち10名は、「女性のつばさ交流事業」としてウィスコンシン州を訪問しました。ウィスコンシン州では、2005年来葉された「女性のつばさ」のJanie J. Ritterさんとウィスコンシン千葉INC文化委員長の宮崎さん夫妻が、私たちの要望を基に全て企画してくださいました。

私にとりましては2回目の訪問でしたが（10名中4名は2回目）、何より感動したのは友情と信頼、そして温かいおもてなしでした。ウィスコンシン千葉INC主催の歓迎会、女性のつばさ同窓生によるJanie J. Ritterさん宅におけるポットラックパーティ、福祉・医療・環境分野の視察に際しての案内やホームステイなど、全て女性のつばさ同窓生が担ってくださいました。

今も印象深く残っているのは、ドイル夫人からお茶会にお招き頂き、知事公舎を訪問したことです。公務多用のドイル知事ともお会いし、教育熱心なドイル夫人とは子育てについて意見交換することができました。

ウィスコンシン千葉INCと女性のつばさ同窓会、千葉県総の会とCWAのご配慮によって素晴らしい訪問ができましたことを感謝申し上げます。

なお、私たちつばさの会も、ウィスコンシン女性のつばさが来葉されたおりには、日本料理の体験や皇居見学など、特別メニューでおもてなしをして交流を深めております。

「第42回日本・米国中西部会 日米合同会議」が開催されました。

去る9月12日(日)から14日(火)にかけて、「第42回日本・米国中西部会 日米合同会議」が、米国ミシガン州デトロイトにて開催されました。

この会議は、日本と米国中西部諸州の経済関係者や自治体関係者等が一堂に会し、相互交流や理解促進を図ることを目的として、毎年、日米交互に開催されているものです。

本年は、「力強い未来に向けて：変革と成長戦略」をテーマに、日米から約350名の参加者を集めて盛大に開催され、活発な意見交換が行われました。

米国からは、ジム・ドイルウィスコンシン州知事をはじめ、中西部各州の知事が出席し、日本からは、共同議長を務めた茂木友三郎キッコーマン会長や嘉田滋賀県知事、上田埼玉県知事が出席しました。

会議は、最終日に共同声明を採択して閉会となりました。次回は明年9月に東京での開催が予定されています。



共同議長を務めた茂木会長と
トンプソン元イリノイ州知事

千葉国体総合開会式でブース出展

9月25日(土)、第65回国民体育大会「ゆめ半島千葉国体」の総合開会式が千葉マリンスタジアムで行われ、千葉ウィスコンシン協会では、おもてなしゾーンにおいてブースでの出展を行いました。

ブース内では、千葉県とウィスコンシン州との様々な交流に関するパネルをはじめ、ウィスコンシン州出身の外国人指導助手による県内の学校での活動状況や、鴨川市やいすみ市による交流を紹介するパネル等を展示。なかでも、パネル「躍動する姉妹交流」では、「融」「舞」「打」をキーワードにこれまでの交流活動から躍動感溢れる写真を抽出し、3枚のパネルを用い紹介しました。

そのほか、スポーツにちなんだ展示として、ウィスコンシン州の人気プロフットボールチーム「グリーンベイ・パッカーズ」が、1997年1月のスーパー bowlで勝利し全米一になった試合の映像や、その熱狂的ファンが応援の際にかぶるチーズ形の帽子「チーズヘッド」などを披露しました。

当日の午前中は、台風接近による大雨と強風の影響で出足はやや不調でしたが、開会式が始まった昼ごろから一転しての秋晴れとなり、多くの方にお立ち寄りいただきました。訪れた方々は、ウィスコンシン州にこれまで行った方など何らかの興味を持っている方が多く、千葉県とウィスコンシン州との多岐に亘る交流の状況に感心している様子でした。今回、スポーツ関係の雑誌記者の取材があり、ウィスコンシン州の魅力が少し増したように感じられました。



展示ブースの前でスタッフ勢ぞろい

グローバルフェスタChibaに 参加します!!

千葉ウィスコンシン協会では、昨年度に引き続き、グローバルフェスタに参加します。

「平成22年度グローバルフェスタChiba」は、平成23年2月6日(日)の午前10時から午後4時まで、千葉大学のけやき会館（JR西千葉駅から徒歩10分、京成みどり台駅から徒歩6分）で開催されます。

当協会では、千葉県とウィスコンシン州との交流に係るパネル展示を行うほか、昨年度大好評だったトルティヤの販売を予定しています。

美味しいトルティヤを楽しみに、ぜひ出展テントへお越しください。

CWAホームページの充実のためアイデア募集！

千葉ウィスコンシン協会(CWA)のホームページをご覧になったことがありますか？

CWAでは、さらに魅力的なホームページづくりのため皆さんからアイデアを募集しています。CWAホームページのCWA掲示板を利用してもご投稿いただけます。

沢山のご提案をお待ちしています！

郵送：〒260-8667 中央区市場町1-1

千葉県総合企画部国際室 CWA担当迄

FAX：043-224-2631

ホームページのアドレスは下記を参照してください。

【編集後記】

友好使節団参加者の皆さんお疲れ様でした。強行スケジュールの中、各グループで多くの交流成果を残し有意義な訪問だったと感じられました。

ところで、食の秋、ウィスコンシン州での味覚を思い出してみました。何よりビール。そして、ビールと相性バツツリのソーセージとチーズ。さらに、白身魚やジャガイモ等の塩茹で鍋「フィッシュポイル」、ステートフェア名物クリーミーパフ、バターをたっぷり付けた蒸焼きトウモロコシ…。

海は無いけれど湖や、農業、畜産に恵まれるウィスコンシンは、千葉県同様、“食の宝庫”です(Mitch)。

発行所：千葉ウィスコンシン協会

発行人：森山茂男 編集人：広報部会

<http://www.chiba-wisconsin.jp/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(財)ちば国際コンベンションビューロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2398(千葉県国際室)